共にしあわせ産みだす日本共産党

市議団ニュース

第２０１５号
２０２２年４月１７日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町４－２０３
TEL ２３－６０２３
FAX ２４－１６８４

戦争と音楽２

2020年11月8日付の市議団ニュース（第1965号）で、当時放送されていたＮＨＫの朝ドラ「エール」を見て感じたことを「戦争と音楽」と題して記事にしました。いま、ロシアによるウクライナ侵略で、あらためて戦争と音楽について考えさせられています。

（文責：鈴木一彦）

きっかけは、４月９日付の北海道新聞夕刊の記事でした。そこには「ロシア音楽揺らぐウクライナ侵攻」「クラシック関係者苦慮」の文字が…。

記事の内容を簡単に説明すると次のようになります。

ロシアを代表する作曲家チャイコフスキーが、ナポレオンのロシア進攻をロシア軍が撃退した戦いを描いた曲、祝典序曲『１８１２年』の演奏を中止する動きが国内で続いている。関係者は、「チャイコフスキーに罪はないが、（いま）ロシアが勝つ曲をやるわけにはいかない」と話している。

たしかに、『１８１２年』のような曲は、いまは演奏すべきではないかもしれません。けれども、音楽を含めたロシアの芸術が排除されるようなことは、あってはならないと思います。

帝政ロシアからソ連、そして現代ロシアまで、音楽、文学、美術、バレエ、映画、演劇など、あらゆる分野ですぐれた芸術（家）がたくさん生まれています。そして、それら（彼ら）は、プーチン政権とは関係ありません。

すぐれた芸術は人生を豊かにしてくれます。一方で、為政者が芸術を自分たちの都合のよいように利用してきた歴史があるのも事実です。

戦時中の日本は、音楽、文学、美術などを、国民の戦意高揚に徹底的に利用しました。また、アメリカのジャズなどは敵性音楽として排除されました。

余談ですが、音楽教育では「ドレミファソラシド」が敵性語だとして「ハニホヘトイロハ」に言いかえられましたが、ドレミはイタリア語です。当時のイタリアはドイツとともに日本の同盟国だったので〝敵性語〟というのはおかしな話です。

今のところ、『１８１２年』の演奏中止以外に、ロシア音楽を排除するというような動きはありません。ロシアに限らず、特定の音楽、芸術を否定する動きは、危険な道につながります。私は、常にアンテナをはり、そうした動きに敏感でありたいと思っています。

プーチン・ロシアによるウクライナ侵略は断じて許されません。一方で芸術には罪はありません。私はこれからも、ロシア音楽に耳を傾け、ロシア民謡を口ずさみます。できることなら、ロシア人音楽家による生演奏も聴きたいと願っています。

畠山和也「かけある記」

広がれ平和の声

２０２２年４月１１日

元衆議院議員　畠山和也

交通事故に遭われた松橋ちはるさんが療養に専念することから、私が参院選の北海道選挙区から立候補することを発表しました。あたたかさと芯の強さを備えた松橋さんには、応援と期待の声が寄せられていました。松橋さんの思いを継いで、がんばりぬきます。よろしくお願いいたします。

士別市議選挙と帯広市議補欠選挙、新ひだか、安平の両町議選挙で日本共産党候補者への応援など、各地をまわっています。コロナ禍や物価高騰、年金削減などからくらしを守る住民の味方の議席、そしてロシアのウクライナ侵略を許さないと地域から声を上げる反戦平和の議席です。投票日は17日、ぜひ（それぞれの地域のお知り合いに）ご支持を広げてください。

「終戦の年に生まれ、親から戦争は絶対にダメだと何度も言われた」。旭川市の「つどい」で口を開いた方は、その言葉が今になってよくわかると、こう続けました。「ウクライナから子どもを連れて避難する母親の姿が、空襲警報のたびに赤ん坊の私を連れて壕に入ったという私の母親と重なった」。あのような時代にしてはならないという話に、背筋が伸びました。

自民や維新から敵基地攻撃や核兵器共有、憲法改悪など危機をあおる発言がされています。しかし、政治の役目は戦争をしないよう外交に努力を尽くすこと。今こそ反戦平和を貫く日本共産党を大きくしなければなりません。

和也の「和」は平和の「和」。「はたやま動くところ、平和が広がる」ようにがんばりぬきたい。